

# 公益社団法人都市住宅学会関東支部・2013年度総会

日時：2012年4月24日(水) 15:30～16:00  
場所：千代田区富士見 2-7-2  
ステージビルディング 7階

## 議 事 次 第

### 1 開 会

### 2 関東支部長挨拶

### 3 審議事項

第1号議案 2012年度事業報告(案)について

第2号議案 2012年度収支決算(案)について

第3号議案 2013年度事業計画(案)について

第4号議案 2013年度収支予算(案)について

### 4 その他事項

### 5 閉 会

## 2012年度事業報告（案）

(2012年4月1日より2013年3月31日まで)

1. 会員総数（2013年3月31日現在）：691名（うち権利停止者35名）

2. 総会開催

2012年度総会を次の通り開催した。

日時：2012年4月27日（金） 15:30～16:30

場所：ステージビルディング 7F会議室（東京都千代田区富士見2-7-2）

議事事項：第1号議案 2011年度事業報告（案）について

第2号議案 2011年度収支決算（案）について

第3号議案 2012年度事業計画（案）について

第4号議案 2012年度収支予算（案）について

第5号議案 2012年度・2013年度支部役員について

3. 常議員会開催

(1) 第1回常議員会 2012年 4月 6日（金）

(2) 第2回常議員会 2012 7 20

(3) 第3回常議員会 2012 10 16

4 4 2013 1 28

2-7-2

7

4. 講演会等の開催

(1) 公開シンポジウム 計 2回開催

(2) 仮設市街地研究小委員会 計 1回開催

(3) 郊外住宅地研究小委員会 計 2回開催

(4) 計 2回開催

5. 学際的学術研究の推進

公開シンポジウム

Aging in Place

日時：2012 4 27 16 15

場所：ステージビルディング 7F会議室

講演者：

参加者：24名

## 第1号議案

### ・第1回

日時：2012年4月2日

- ・今後の陸前高田市・長洞仮設集落（長洞元気村）の復興支援のあり方等について検討

### ・第2回

（陸前高田市、大槌町 現地支援）

日時：2012年4月6～9日

- ・陸前高田市復興局ほかとの高台移転に関する意見交換、長洞元気村復興懇談会、長洞・只出集落合同復興会議、唐桑鮪立漁港における番屋の現地調査
- ・大槌町5漁港の関係者、町当局との漁村集落の復興（漁村集落防災機能強化事業＝水産庁所管）に関する話し合い
- ・釜石市及び気仙沼市の復興商店街など視察

### ・第3回 研究会

（陸前高田市 長洞元気村）

日時：2012年5月20～22日

- ・高台移転に関する市当局との折衝及び長洞元気村住民との話し合い

### ・第1回 郊外戸建住宅地研究小委員会

日時：2012年6月1日（金）18：30～ 場所：相模女子大学 稲田研究室

「高度経済成長期の計画的郊外戸建住宅地における居住実態

—伊勢原市愛甲原住宅・あかね台住宅の場合」

（伊勢原市の郊外戸建住宅地の研究2～3事例の紹介）

### ・第4回

（陸前高田市 長洞元気村）

日時：2012年6月15～17日

- ・高台移転に関する市当局との意見交換
- ・長洞元気村住民との話し合い（復興公営住宅の計画などについて）
- ・長洞元気村住民の建築相談への対応

### ・第5回

（陸前高田市出張 長洞元気村）

日時：2012年7月13～16日

- ・高台移転に関する市当局との意見交換
- ・番屋計画敷地の測量

### ・第2回 郊外戸建住宅地研究小委員会

日時：2012年9月21日（金）18：30～20：30 場所：湘北短期大学

テーマ：「都市部における賃貸併用住宅に関する研究」

世田谷区奥沢周辺の資産運用型住宅建設の実態とその後について

参加者：研究会メンバー

第1号議案

2012 10 24 16:00 17:50

(1)

(2)

(3)

(4)

21

2

2012 11 9 10:30 12:00

12

・第3回 郊外戸建住宅地研究小委員会(公開研究会)

日時：2012年12月6日(木) 18:00～21:00 場所：多摩NT福祉亭

テーマ：高齢者の居場所としての「永山福祉亭」

講師：NPO法人永山福祉亭 理事 寺田美恵子

参加者：13名(研究会メンバー 大妻女子大学学生 NPO法人風の丘 ほか)

3

第6回

2012 12 19 16:00 19:00

(1)

(2)

(3)

21

・第4回 郊外戸建住宅地研究小委員会(公開研究会)

日時：2013年3月13日 ( ) 16:30 18:30

4

:

16

20

2013 4 2 17 30 21 15  
7

都市住宅学会設立20周年記念連続シンポジウム企画

## 東日本大震災における 仮設住宅の在り方を考える

2013年4月2日(火) 17:30～20:30  
(開場17:00予定)

内容  
<あいさつ> 高田光雄(京都大学)  
<解題> 大月敏雄(東京大学)  
<報告>  
「復興の中の仮居住・仮設住宅の課題」 宇杉和夫(西安交通大学)  
「仮設住宅をめぐるまちづくりの現状」 小泉秀樹(東京大学)  
「仮設住宅と福祉の連携」 富安亮輔(東京大学)  
「仮設住宅で日常を取り戻す展望」 新井信幸(東北工業大学)  
<討議> 司会: 森反章夫(東京経済大学)



主催: 都市住宅学会 関東支部・東北支部  
企画担当: 東日本大震災復興住政策特別研究委員会  
関東支部仮設住宅地研究小委員会  
関東支部地域コミュニティ住宅計画研究小委員会

日時: 2013年4月2日(火) 17:30～20:30 (開場17:00予定)  
場所: 都市住宅学会会議室(千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング7F)  
参加費: 無料  
問合せ先: 社団法人 都市住宅学会 事務局(月～金: 10:00～18:00)  
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング7F  
Tel: 03-5211-0597 / Fax: 03-5211-0598 / E-mail: t-info@uhs.gr.jp

6. 第9回学生(卒業論文・修士論文)論文コンテスト開催(東北支部との共催)

第1号議案

2013 3 6 13 00 18 00

応募数：卒業論文1編、修士論文13編

1

2 3 2

27

7.

2012 10 18 13 30 16 00

UR 多摩平の森団地再生事業 見学会

19

8. 第17回交流研究会「韓国視察」

期間： 2013年3月28日（木）から3月31日（日）3泊4日間

訪問先：韓国 世宗市、ソウル市ほか

参加者：16名

3/28(木)	各地発 ソウルへ 成田発 9名 関空発 6名 福岡発 1名 現地着後、自由行動
3/29(金)	世宗市(行政複合都市)視察 (高田会長合流) ・行政中心複合都市建設庁展示館訪問 行政中心複合都市の全体計画等 ・展望台より新都市建設過程俯瞰 ・国土海洋部住宅政策課訪問 韓国の住宅政策についての説明と質疑  韓国住居学会との懇親会
3/30(土)	ソウル市視察(sh 公社開発プロジェクト) ・上岩 Digital Media City ・ゴミ埋め立て地の公園への改修現地視察 ・マゴック地区における新都市開発 ・恩平ニュータウン訪問、現地視察 休戦線(DMZ)付近 臨津閣(イムジンガック)訪問 ・南北分断に関連した現代アート等を取り入れた展示の視察)
3/31(日)	ソウル市永登浦区文来洞 現地視察 (旧道林町住宅営団モデル住宅地及び旧鐘紡社宅地) ・歴史的経緯と現状 (漢陽大学校建築学部 富井正憲教授より)  各地に向け帰国

2012年度社団法人都市住宅学会関東支部・収支決算書(案)

2012年4月1日から2013年3月31日まで

【収入の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	予算-決算	摘要
支部交付金	1,121,443	1,121,443	0	
雑収入	50,000	690	49,310	
受取利息	0	690	△ 690	
雑収入	50,000	0	50,000	
当期収入合計(A)	1,171,443	1,122,133	49,310	
前期繰越金	781,590	781,590	0	
収入合計(B)	1,953,033	1,903,723	49,310	

【支出の部】

(単位:円)

科目	予算額	決算額	予算-決算	摘要
給与・賃金	500,000	500,000	0	
研究会費	360,000	195,720	164,280	
会議費	60,000	59,048	952	
通信・連絡費	20,000	3,710	16,290	
消耗品費	0	0	0	
印刷製本費	0	0	0	
交流研究会費	200,000	191,000	9,000	
シンポジウム費	300,000	192,751	107,249	
雑費	10,000	6,293	3,707	
当期支出合計(C)	1,450,000	1,148,522	301,478	
当期収支差額(A)-(C)	△ 278,557	△ 26,389	△ 252,168	
次期繰越金(B)-(C)	503,033	755,201	△ 252,168	

◆2012年度都市住宅学会関東支部決算報告の監査結果について◆

社団法人都市住宅学会関東支部支部規則第7条、第4項に基づき、  
2012年度都市住宅学会関東支部決算報告関係書類を監査した結果、支障ないことを報告します。

2013年4月23日

社団法人 都市住宅学会 関東支部

会計監査

杉本 茂



会計監査

中城 康彦



2 2012

2013 3 31

( : )

1	1,232,353 1,232,353	1,232,353	
2	2,016,470 2,016,470	2,016,470	
	3,248,823		3,248,823
1	199,000 199,000	199,000	
	199,000		199,000
( )	3,049,823 - 26,389		3,049,823 26,389
	3,248,823		3,248,823



**正味財産増減計算書**  
2012年4月1日から2013年3月31日まで

(単位:円)

科目		
I 増加の部		
1資産増加額		
	当期収支差額	
	棚卸資産増加額	
	運営基金増加額	
2負債減少額		
	増加額合計	0
II 減少の部		
1資産減少額		
	当期収支差額	26,389
	棚卸資産減少額	
	運営基金減少額	
2負債増加額		
	減少額合計	26,389
	当期正味財産増加額	-26,389
	前期繰越正味財産額	3,076,212
	期末正味財産合計額	3,049,823

# 財 産 目 録

2013年3月31日現在

(単位:円)

科目		
I 資産の部		
	1流動資産	
	現金	53,006
	普通預金 三菱東京UFJ銀行麹町支店	1,179,347
	流動資産合計	1,232,353
	2固定資産	
	基本財産	
	保証金	
	運営基金 三菱東京UFJ銀行麹町支店	2,016,470
	固定資産合計	2,016,470
	資産合計	3,248,823
II 負債の部		
	1流動負債	
	未払金	199,000
	前受金	
	預かり金	
	仮受金	
	流動負債合計	199,000
	負債合計	199,000
	正味財産	3,049,823

2013

- ) 郊外戸建住宅地研究小委員会
- ) 小委員会

### 「仮設市街地研究小委員会」2013年度活動計画

テーマ：仮設市街地運営と復興協議

■研究概要：現在、復興への行程が制度的にも不明なままであり、地域間での復興格差が拡大しつつある。そうした状況の全域的な把握と個別地域での復興協議状況の把握をおこなうこととする。東北支部 新井信幸氏（東北工業大学）とも連携をはかりながら研究を進める。

■研究期間：2013年5月1日～2014年3月30日

■研究メンバー：

主査 森反章夫  
幹事 濱田甚三郎  
委員 小泉秀樹 大月敏雄

■研究事項（活動計画）：

1. 各被災県ごとに、生活相談員などの仮設支援員の活動実態を含め、どのように復興協議の支援策が展開しているのかについて検討する。
2. 集会所などの施設の活用実態、仮設住宅地での新たな住民組織の復興協議の実態などについて、検討する。
3. 仮設住宅地での、被災地区の復興協議を進めるにあたっての問題点を把握する。

■結果のまとめの予定（情報発信）：

復興にあたっての問題点と解決策の提言をおこなう。  
同時に、この研究会を参加自由とし、広く都市住宅学会会員に開放することとする。

### 「郊外戸建住宅地研究会」2013年度活動計画

テーマ：高度成長期の計画的郊外戸建住宅地における居住実態と持続可能性

■研究概要：大都市郊外の高度経済成長期に開発された計画的戸建住宅地では、居住者の年齢層の偏りや住替えの停滞等から、人口減少と高齢化が急速に進行しつつある。

神奈川県内でも、高度成長期の民間による計画的郊外戸建住宅地は、良好な居住環境を有し、大手企業のサラリーマン層が居住する比較的高級な住宅地として、知られてきた。しかしながら、開発当初の居住者層が高齢化し、次世代の世帯分離による転出で、高齢者のみの世帯が増加し、空き地・空き家が増えつつある住宅地もある。

昨年度の成果を踏まえ、居住者の高齢化による居住環境上の問題のうち、持続可能な住宅地の課題（買い物・交通等日常生活の利便性、居住者間の交流・コミュニティの再生等）に対しての居住者の取り組みに注目し、住み続けるための共助のしくみ、地域主体のエリアマネジメントの可能性について探ることを目的とする。

■研究期間：2013年4月1日～2014年3月31日

■研究メンバー：

主査：松本暢子（大妻女子大学）

### 第3号議案資料

幹事：加藤仁美（東海大学）

委員：大家亮子（成城大学）、大橋寿美子（湘北短期大学）

オブザーバー 稲田深智子（相模女子大学）

#### ■研究事項（活動計画）

昨年度の成果を踏まえ、第一に NPO 風の丘のコミュニティカフェの活動支援を行いながら、その可能性や課題を明らかとする。また、地域でのとりくみ事例を収集し、その評価を行いたい。3 か月に1 回程度の研究会において情報交換および検討を行う。

- 1) NPO 風の丘のコミュニティカフェの活動支援
- 2) 生活支援を行っているとりくみ事例の収集・評価
- 3) 生活支援ニーズの検討
- 4) 高齢者福祉施設利用者（デイケア・小規模多機能型施設等）のニーズの検討
- 5) 行政施策（高齢者福祉ネットワーク、住宅政策等）等の把握

#### ■結果のまとめの予定（情報発信）

各自による学会等への論文投稿等

公開研究会の開催

### 「地域コミュニティ住宅計画研究小委員会」 2013 年度活動計画

テーマ：「仮居住」の現状・計画と復興計画

■研究概要：東日本大震災は未経験の国土復旧復興課題を提示している。居住空間計画はその中心的課題であるが、その全体的フレームが形成も合意もされていない。それは現在までの住宅計画が同時代人の需要と問題を解決するためのものであり、次世代次世紀に向けた長期課題（環境・津波等）に対応していないこと、次には放射能汚染被災避難という未経験の課題がある。ここに応急仮設住宅から復興住宅建設入居という既成の単純な震災復興のプログラムでは対応できない現実がある。本研究ではその全体像・フレームの構築が課題であることの認識を重視するが、第一には被災・非難・仮居住・仮設住宅等の居住経過、およびそのコミュニティ持続性の全体的把握がなされていないことを最大の課題とする。現在は被災救助から仮設住宅居住等への転換後にあたり、ようやくにしてこの課題に取り組む認識と状況が始まりつつあるが、その目標の議論も必要とされている。困難な課題は多いが、本研究ではその目標を「地域コミュニティ持続再生」とし、地域コミュニティの継承性と変容性および創生の課題に視点を置く。また 20 世紀の居住地選定型住宅供給計画との相違、批評・評価を重視して、各地域の実情の報告を尊重した調査・検討・議論をし、新たな地域主権時代の住宅計画方法論構築を目標とする。2013 年度は、2012 年度のテーマとした「『借上げ社宅：みなし仮設』の現状と復興計画」での研究を踏まえて、「仮居住」について研究を進める。

■研究期間：2013 年 5 月 1 日 ～2014 年 3 月 30 日

■研究メンバー：東日本復興支援「地域コミュニティ住宅計画研究小委員会」2013

委員長 宇杉和夫（西安交通大学客員教授）

幹事 薬袋奈美子（日本女子大学）

幹事 浦上健司（日本大学）

幹事 北野幸樹（日本大学）

委員 定行まり子（日本女子大学）

### 第3号議案資料

森反章夫 (東京経済大学)  
小泉秀樹 (東京大学)  
三橋伸夫 (宇都宮大学)  
長谷川洋 (国土交通省国土技術政策研究所、住環境計画研究室)  
米野史健 (建築研究所、住宅・都市研究グループ)  
川崎直宏 (市浦ハウジング&プランニング)  
稲葉 修 (三井ホーム)  
川越 晃 (埼玉県都市整備部)  
協力者 鈴木孝男 (宮城大学)

#### ■研究事項 (活動計画)

2013年度 公開研究会開催予定

第3回 テーマ:「仮居住の現状と復興計画:福島県」(仮題)

第4回 テーマ:「仮居住の現状と地域支援:首都圏」(仮題)

#### ■結果のまとめの予定 (情報発信)

上記 公開研究会を開催 (一般公開)

